

「再稼働阻止全国ネットワーク」はどのようなものか、それはなにをめざすのか？

— 再稼働阻止が最大重点、再稼働阻止こそ原発ゼロを実現する近道 —

1. 再稼働阻止の1点に集中した運動 ～知恵と力を出し合って全国共同した闘いを～

- 大飯原発再稼働反対の運動の巨大な高まり、脱原発世論の高まりによって、2基以外の原発（48基）は停止したまま、原発ゼロは視界に引き出され、「〇〇年までに原発ゼロ」という議論も広がった。しかし問題はつまるところ再稼働するのかそれを許さないか、ということに煮詰まる。その1点をめぐって原発維持推進か、原発ゼロかが具体的に問われる。
- 原発持推進勢力は、着々と再稼働への地ならしをし、態勢をつくりつつあり、近い将来に再稼働の嵐がやってくる。原子力ムラで占められた規制委員会—規制庁は来夏の再稼働をめざして計画を策定し、電力会社や自治体に指示し始めている。
- この再稼働を阻止し抜くことによって原発ゼロをたぐり寄せ、現実のものとしていくこと、そういう脱原発の道を追う。そのために知恵と力を出し合って、全国共同した闘いを進めよう。
- この再稼働を阻止し抜くという上で土台となるのが、「福島を忘れない！福島を風化させない！福島とともに生きる！」ということである。なぜなら＜福島＞こそ原発の真実をあからさまにし、今も進行中の原発災害であり、＜福島＞こそ脱原発へと向かう「国民的」原体験だからである。再稼働を絶対に許さない！という原動力はそこにこそある。

2. 原発現地（立地地域+周辺地域）を主体として、それを横につなぎ、福島につなぎ、全国につないでいくフラットなネットワーク

- 再稼働を阻止していく上で要となるのは原発現地（立地地域+周辺地域）の闘いであり、それに連携する「消費地元」の闘いである。脱原発への国政の転換を求める運動と原発現地を主体とする再稼働阻止の運動は両輪をなし、両輪は密接で互いを激励し、高め合う関係であるが、ネットワークは後者を担っていく。
- 過去に70年代後半及び80年代の二つの原発建設ラッシュ時を頂点として、各地で原発建設反対闘争は激しく闘われた。その中には貴重な勝利を勝ち得た闘いもあれば敗北したものもあり、今も尚継続されている闘いがある。しかしそれらは基本的に「各地の闘い」に押しとどめられ、その多くは教訓も普遍化されず埋もれたままにされてきた。

しかし、3・11はそれを大きく変えた。まず、3・11は「現地」ということを大きく変えた。原発事故の被災は広大な範囲に及び、立地地域のみならず広大な周辺地域をもなべて「原発現地」へと変え、日々直接に原発の危険に向き合わされる地域へと変えた。だから、そうした地域で決定権を取り戻すべく、電力会社に安全協定の締結を求める声が高まっているのはけだし当然である。

また、昨年（2011年）5月の全原発の停止・稼働原発ゼロという画期的局面を迎えて以来、ひとつ一つの再稼働がこの列島に住まう人々の生命と生活、社会の根幹に関わる問題として、全民衆的な、全国的な問題となっている。従って、ひとつ一つの「各地の闘い」がそれ自身、全国的な、全民衆的な闘いとしてあること、そのことを現実のものとしていく連携、手だてとしてこのネットワークはある。

- 東京圏をはじめとする大都市圏はもう一つの現地であり、もう一つの地元である。とくに東京は政府諸機関・電力会社をはじめとする財界・政党・原子カムラの中枢が集中し、情報が集中し、人口が集中しているとともに、寄生的な消費都市として最大の電力消費地であり、そういうものとして当事者であり、原発現地に対して加害性と責任を負っている。だから東京圏 - 大都市圏の運動は、つねに原発現地を意識し、原発現地とつながっていくことが必要であり、そうすることで全国的な媒介者としての役割、支援の大後方としての役割を果たしていくとともに、原発現地 - 全国の意志を政府・原子カムラの中枢に対峙させていく役割を担う。なかでも当面、規制委—規制庁との闘いが環となる。（関西では対関電闘争）と同時に忘れてならないのは、東京圏の原発=東京湾に浮かぶ2つの原子炉（60万kW×2基）、原子力空母（70万kW）、原子力潜水艦群、横須賀の核燃料製造工場、東京湾から柏崎・もんじゅ等への核燃輸送である。

3. 全国ネットは「組織先行型」ではなく、運動と行動を通して創り上げられ、発展していくものである

- 全国ネットは運動の全国連携のためのものであり、全国的に連携した運動と行動を発展させるためのものである。だからそれは運動と行動を通して創り上げられ、発展していくものである。

そもそもこのネットワーク創成の始まりは大飯原発再稼働阻止の福井 - 大飯現地行動であった。関西 - 大飯では3月・4月、戸別アンケート活動と対県庁行動 - 4月監視テント設立 - 5月もう一つの住民説明会 - 6月全国結集の福井大集会 - 全国から参加した6月30日~7月1日大飯現地行動という一連の行動を通して、福井—関西—東京—福島をつながりから始まり、伊方・玄海・志賀・泊・浜岡が結び付いて全国的連携が生み出され

た。闘いの絆によって生まれてきた連携である。

7月15日東京での集まりを経て、8月の「伊方原発再稼働阻止、大飯原発を止めよ」のローガンの下での集会は、四国ネット - 瀬戸内ネットそして全国からの参加をもつての行動であり、そこで「再稼働阻止全国ネットワーク」の準備会が発足した。

- 9月1日～12日の志賀原発 - 羽咋市の「いのちのネットワーク」の闘いは、積み重ねられてきた闘いが大飯現地闘争を転回点として新たな闘いへと踏み出したものであったし、それによって闘い取られた「安全協定締結要求」の市議会決議は、その後全国の30キロ圏自治体に波及している。

東海村のシンポジウム、東京 - 柏崎刈羽交流行動、泊全道集会、大間原発建設再開反対行動、運動の渦は広がり、共鳴しあっていく。それがこのネットワークの基盤であり、それをより意識的で協働的なもの、より確かなものとしていくこと、それがこのネットワークの課題である。

2012年11月起草